

# 今後の「研修の構成・内容」に関する検討の進め方： 第三回企画検討会の資料3 - 3から

防災スペシャリスト養成研修のあるべき姿

一人でも多くの地方公共団体の職員が防災に関して学ぶべき事項を効率よく習得すること。

柱1. 学習機会の拡大

柱2. コースと単元の見直し・  
拡充

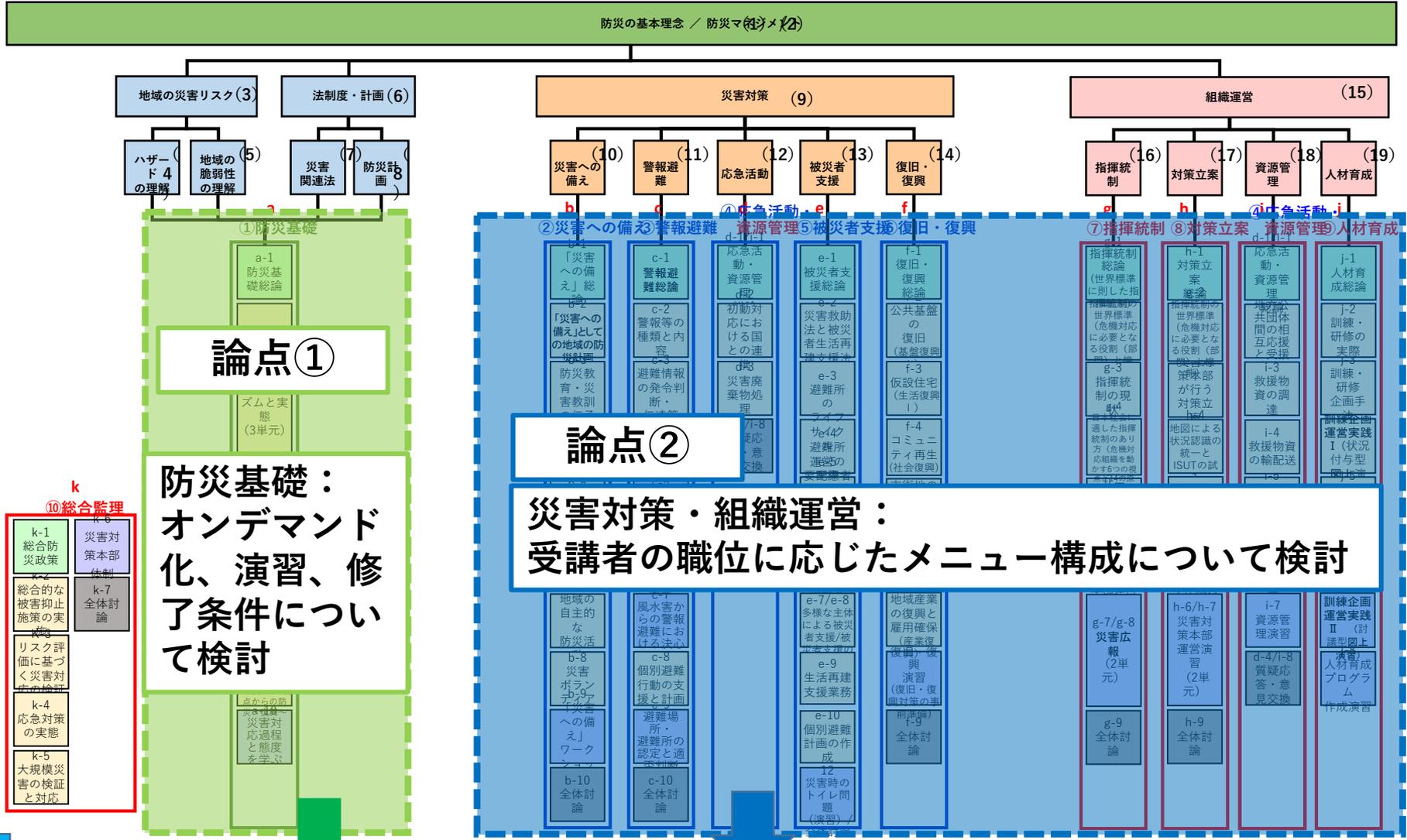
柱3. 職位に応じたメニューの  
設定・提示

柱4. 有明の丘と、地域研修、  
OJT研修の連携

## 今回の企画検討会の論点

- 防災基礎のオンデマンド化  
(論点①)
- 受講者の職位に応じたメ  
ニュー構成(論点②)
- トレーナートレーニング  
コース新設(論点③)
- 地域研修及びOJTとの連携  
(論点④)

第1階層  
第2階層  
第3階層  
第4階層(単元)



k ⑩総合監理

k-1 総合防災政策	災害対策本部体制
総合的な被害抑制施策の実施	k-7 全体討論
リスク評価に基づく災害対応策の検討	
k-4 応急対策の実態	
k-5 大規模災害の検証と対応	

有明の丘 内防で業務

**OJT研修：**地方公共団体から派遣された職員が、災害対策上の課題解決の糸口を探る

**論点④**

防災基  
**地域研修：**地域における災害対応能力の一層の向上

避難指示等の判断・伝達  
災害廃棄物処理  
防疫・保健・遺体処理  
避難所運営  
住家被害認定調査・権限証明  
要配慮者への支援

**防災SP養成eラーニング**  
災害時の応援職員が業務の内容・手順を理解する

**論点③**

演習 質疑応答

**トレーナートレーニングコース  
トレーナー育成**

# 防災基礎について

- 基礎科目にも関わらず、倍率が高く受講できない場合が多い
- 講義から修了まで完全**オンデマンド**化し、全受講者に受講してもらうことを推奨してはどうか

## 主な対象(有明の丘研修パンフレットより)

防災部門のみならず、災害対応に関わることになる職員など、**災害対応の基礎**を学びたい方を対象とします。

## 応募者・修了者の現状(第3回企画検討会より)

- すべてのコースで倍率が1倍を超え、特に**防災基礎は、職位にかかわらず受講希望者が多く、倍率が高い(5.5倍)**
- R3年度第一期のオンデマンド講義のみの受講者数は190名(全講義視聴した受講者は116名)←**コース修了予定者の3倍以上が受講**

## 完全オンデマンド化の**メリット**と**論点**

• **多くの希望者が防災基礎コースを受講できる**

- **防災基礎演習はどうするか**←**選択制としてはどうか**
- **修了要件はどうするか**←**修了テストは可能か**

# 災害対策と組織運営について

受講者の希望次第であるが、地方自治体職員が防災に関して学ぶべきことを効率よく学べる**職位別メニュー**を提案してはどうか

## 応募者・修了者の現状(第3回企画検討会より)

- 応募者の約半分が2コース以上の受講を希望している
- 職位によって、応募者数が桁で異なり、希望するコースの傾向も異なる
- 一般職員では災害対策を、課長・部局長では組織運営を希望する受講者が多い
- 職位毎に学ぶべきことを明確化したメニューセットの設定

## メリットと論点

- 応募者数の違いを解決し、且つ希望コースのニーズを満たす
- 職位別メニューを具体的にどう示すか

# 災害対策と組織運営について

## 自治体組織図の例

コアになる防災関連の  
部・課・係

部局長(本部運営)

危機管理監

部局長A

部局長B

部局長C

課長(現場リーダー)

危機管理室長  
(対策立案)

課長  
A-1

課長  
A-2

課長  
A-3

課長  
B-1

課長  
B-2

課長  
B-3

課長  
C-1

課長  
C-2

課長  
C-3

一般職員(業務担当)

危機  
1-1

危機  
1-2

危機  
1-3

一般  
A-1-1

一般  
A-1-2

一般  
A-1-3

一般  
A-2-1

一般  
A-2-2

一般  
A-2-3

一般  
A-3-1

一般  
A-3-2

一般  
A-3-3

一般  
B-1-1

一般  
B-1-2

一般  
B-1-3

一般  
B-2-1

一般  
B-2-2

一般  
B-2-3

一般  
B-3-1

一般  
B-3-2

一般  
B-3-3

一般  
C-1-1

一般  
C-1-2

一般  
C-1-3

一般  
C-2-1

一般  
C-2-2

一般  
C-2-3

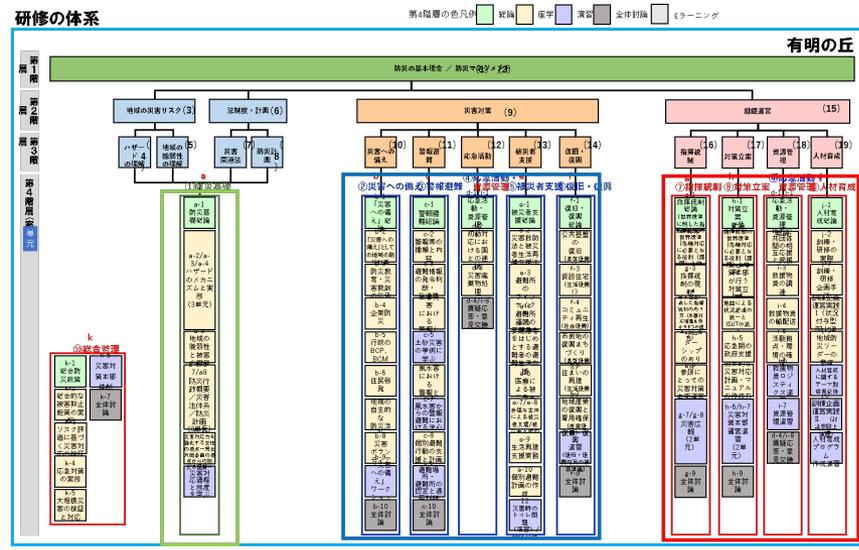
一般  
C-3-1

一般  
C-3-2

一般  
C-3-3



# 災害対策と組織運営について



- 既存10コースの形を残す
- 防災基礎に加え、災害対策基礎と組織運営基礎を作る
- 災害対策と組織運営の各コースについて、概論(エッセンス)、各論、演習を作成する
- **職位別の推奨メニューの内容を検討し、それに適した単元構成を議論してはどうか**
- 推奨メニューに合わせた修了要件もありうる

		一般職員 (業務担当)	課長 (現場リーダー)	危機管理室	部局長 (本部運営)	危機管理監
防災基礎・災害対策基礎・組織運営基礎		○	○	○	○	○
災害対策	概論		○	○	○	○
	各論+演習(いずれか)	○	○		○	
	各論+演習(全コース)			○		○
組織運営	概論		○	○	○	○
	各論+演習 (指揮統制・対策立案)			○	○	○
	各論+演習 (人材育成・総合監理)					○

## 有明の丘研修にトレーナートレーニングの要素を加えてはどうか

### R2年度第3回、第5回、R3年度第3回企画検討会

- 定期的かつ継続的な研修の実施を行うためには、単元の一部を担当できる講師の育成が必要
- オンデマンド型が進む中で、トレーナーの役割、位置付け、育成方法を加味しての検討が必要ではないか。
- 道場に入って学びを深めていくのが最先端のところになるのではないか

### メリットと論点

- 地方自治体における研修の担い手の、体系的な育成が可能になると期待される
- オンデマンドが進む中で、トレーナートレーニングがどのような部分で必要かを議論してはどうか
- 人材育成コースを拡張し、トレーナートレーニングの要素を加えられるか

# 1. 地域研修との連携

- 有明の丘研修の防災基礎コースを必修単元にしてはどうか
- 有明の丘の人的ネットワーク構築の取組みを活かしてはどうか
- 受講者人数確保や地域提案の支援を含めて、地域研修の仕組みを見直してはどうか

## R2年度第5回検討会

有明の丘研修における人的ネットワーク構築

- 名簿の共有
- 受講者同士の自己紹介の実施
- LMS開始前後に交流の場を設定
- 演習当日に交流の場を設定

## R3年度実施状況(資料1-3)

- 50-60人の受講を想定しているが、実際の受講人数は大半の県で50名以下
- 今年度は地域から独自に提案される講習・演習が実施されない予定

# 2. 内閣府(防災担当)OJT研修との連携

- 次ページ以降

# OJT研修の現状

内閣府（防災）では、都道府県・市区町村等より職員を派遣していただき、「内閣府（防災）における業務の執行と、「内閣府（防災）その他の機関が行う座学研修・施設見学への参加」等を組み合わせた「内閣府（防災）OJT研修」を実施。

**対象者：都道府県・市区町村の一般職員（その他、指定公共機関職員）**

**研修期間：主に1年研修と3カ月研修**

**実績：平成25年度～令和2年度に244名（1年研修164名、3ヶ月研修80名）**

危機事態に迅速・的確に対応できる人

活動の前提

（枠組み、基礎知識）の習得

- 有明の丘研修
- 内閣府内の研修
- 関係省庁による講義
- 防災施設等の見学

活動遂行能力

（個人の能力）の向上

- 内閣府での業務経験
- 被災地等への現地派遣

国・地方のネットワークを形成できる人

人的ネットワーク

の構築

- 業務を通じた構築
- 研修を通じた構築

# ①募集

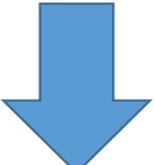
## 現状

### 募集方法：

- 都道府県の防災担当部局、人事担当部局、市町村担当部局へメール連絡
- 市区町村へは都道府県から展開、都道府県がとりまとめ、内閣府に回答
- 指定公共団体の防災担当者へメール連絡

### 応募要項に記載された研修内容 (手持資料⑤、⑥参照)

- 防災に関する知識の習得（内閣府防災の各参事官室での業務、各種検討会等の聴講）
- 災害経験の共有（被災地の調査、政府調査団等への参加、政府災害対策本部の補助員）
- 内閣府が行う研修の受講（有明の丘研修、内閣府防災各室の講義、各省の講義、施設見学）
- 外部研修の受講（国土交通大学校、自治大学校等）



## 課題：

募集においてOJT研修のメリットが明確でない

## 論点

**研修を受けることのメリットを伝える方法**

## ②業務、現地派遣

現状：

- ・内閣府(防災)の各室の職員として業務を執行
- ・被災地への現地派遣(R3年度熱海、等)

課題：

- ・室内の限られた業務のみ従事 (1年研修生は10室、3カ月研修生は1室)
- ・災害発生状況や業務の進捗状況等により被災地派遣ができない場合がある

論点

- ・内閣府防災における多様な業務の経験や知識の共有
- ・平時における現地での経験の積みかた

### ③各種研修・施設見学等

現状：

- ・内閣府（防災）が実施する「**防災スペシャリスト養成研修（通称、有明の丘研修）**」に参加
- ・内閣府（防災）及び防災関係省庁（警察庁、消防庁、防衛省等）担当官による講義を受講
- ・有明の丘基幹的広域防災拠点施設等の防災関係施設を見学
- ・政策研究大学院大学主催の「防災連続セミナー」を受講
- ・研修生による物資システム訓練の企画と参加

課題：

- ・業務との関係による時間の制限
- ・施設見学地や内容の固定化

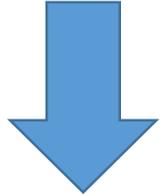
↓  
論点

- ・有明の丘研修等を効率的・効果的に受講する方法
- ・施設見学地の開拓
- ・研修生の自主性を活かした研修方法

## ④研修後の人的ネットワークの維持

現状：

- ・有明の丘メールマガジンへの登録  
⇒有明の丘研修修了者に向けたメールマガジン



課題：研修期間終了後の関係継続の難しさ

論点

- ・研修後もOJT研修で培った人的ネットワークを維持する方策